

## 学会参加記

## 第2回欧州耳鼻咽喉科・頭頸部外科アカデミー学会 2nd Meeting of European Academy of ORL-HNS and CE ORL-HNS

萩原 晃  
Akira HAGIWARA

東京医科大学耳鼻咽喉科学講座

私たちは平成25年4月27日から30日まで、フランスのニースで開催された欧州耳鼻咽喉科・頭頸部外科アカデミー学会に参加しましたので報告いたします。

この学会は開催が2回目であり、日本でよく知られた存在とは言えませんが、学会事務局に以前から交友のある慈恵会医科大学の宮崎先生がおり、鈴木教授と共に是非参加したらどうかとの誘いを受け、当科からは鈴木衛教授、近藤貴仁先生と私、厚生中央病院に出張中の永井賀子先生とともに参加しました。実際に参加してみると80カ国以上から2,500人以上の参加がある、予想以上に大きな学会でした。

鈴木教授はForum「Stocktaking Device: Vestibular Assessment」で自覚的視性垂直位(SVV)検査についての講演と、「Vertigo (Nystagmus findings)」で眼振所見からめまい疾患の鑑別について30分のレクチャーを行いました。近藤先生は内耳障害モデルを

作成しクプラの形態変化をみる基礎実験の発表、永井先生は新しい平衡機能検査である前庭誘発眼筋電位(OVEMP)を内耳障害患者に行った臨床研究の発表、私は非常に稀な成人発症 nasal glial heterotopiaの1例をそれぞれEポスター発表しました。

学会全体は臨床に特化した印象で、演者の多くが英米以外の非ネイティブスピーカーであったため、理解しやすいと感じました。またライブサージェリーも数多く企画され、症例手術と解剖実習が同時進行する形式で行われる非常に興味深いものでしたが、時間がかかり延長していてもかまわずゆっくり進む所などは、イタリアに近いフランスならではないかと思いました。学会会場入口には各国のvillageが設営され、日本、ロシア、エジプトなどが盛況で、ポスター発表の横でロシア民謡に合わせて踊る人や、力士の格好をした耳鼻科医が登場するなど楽しい雰囲気にあふれていました。



写真1 学会上屋上で鈴木教授夫妻とともに

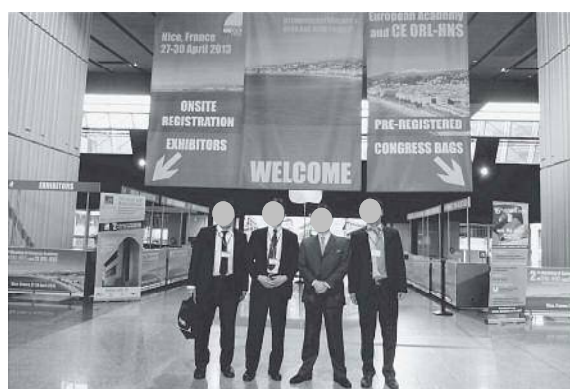


写真2 学会事務局宮崎先生と共に

学会が開催されたニースはコート・ダジュール(紺碧海岸)といわれる南仏リゾートの中心です。周りにはモナコ、カンヌなどの有名な高級リゾート地があり、一年中温暖な気候とのこと。特に学会時期の4月から5月は最高の時期だといわれておりました。ところが私たちが到着してから学会期間中の前半はほとんど雨、それも強く降る時もあり、期待の大きすぎた私たちは落ち込む時もありましたが、勉強に専念?できると考えるようにしました。それでも食事は天候に関係ないので、地理的にフランス料理とイタリア料理に交じった様な、ニース料理を堪能しました。料理に合わせるプロヴァンスのワインや冷やしたロゼワインと魚介類の組み合わせな

どは海外学会の醍醐味であると感じました。学会後半には徐々に天気も改善し、ニース周囲の高級リゾート地に行くことができ、非日常的な感覚を味わいました。学会最後のガラディナーでは多くの先生方とお話することができ、特に永井先生は留学予定の近隣大学の教授と隣席し、手術コースへの参加を勧められるなどの新しい出会いもありました。今回も改めて国際学会に参加し常に刺激を感じ続ける重要性を感じました。

最後にこのような機会を与えて下さった鈴木教授、学会中にご迷惑をかけた耳鼻咽喉科学教室の先生方にお礼申し上げます。